

ビ
ユ
テ
ホ
ー
カ
ン
パ
ニ
ー
企
画
会
議

登場人物	
新入社員	・ ・ ・ ビュテホーカンパニーに入社した新人
ビュテホーカンパニーの社員一同	
チュウカンシヨク	・ ・ ・ まとめ役
・ 部署『ソトヅラ』	
ハリコ	・ ・ ・ ソトヅラの役職者
ミテクレ	・ ・ ・ ハリコの部下
イデタチ	・ ・ ・ ハリコの部下
・ 部署『ウチガワ』	
ドロクサ	・ ・ ・ ウチガワの役職者
ヨゴレ	・ ・ ・ ドロクサの部下
ニゴリ	・ ・ ・ ドロクサの部下
進行役	

ビュテホーカンパニー社員一同入場。

部署ごとに横一列に並び、チュウカンシヨクと新入社員は面々に挟まれる形となる。

一同、服装などをそれぞれチェック。

パリツとしたやや緊張した雰囲気。

新入社員、やや居心地が悪そうである。

チュウカンシヨク、一同の準備が整ったところで、ひとつ咳ばらいをして、

チュウカンシヨク 「(そこそこ大きな声で) 社訓唱和!!」

新入社員、びくつとする。この後の、社訓唱和の間、いちいちびくつきしている。

ハリコ 「(派手に) 私たちビュテホーカンパニーは!!」

一同 「この世の美しいものを作る使命を持っている!!」

ドロクサ 「(卑屈に) 私たちビュテホーカンパニーは!!」

一同 「生み出した美しいものを心から愛している!!」

ミテクレ 「(気取って) 私たちビュテホーカンパニーは!!」

一同 「この世の美しいものを決定する使命を持っている!!」

ヨゴレ 「(ぼそぼそと) 私たちビュテホーカンパニーは!!」

一同 「美しいものを愛する人を心から愛している!!」

イデタチ 「(鼻につく感じで) 私たちビュテホーカンパニーは!!」

一同 「この世の美しいものを選定する義務がある!!」

ニゴリ 「(吐き捨てるように) 私たちビュテホーカンパニーは!!」

一同 「美しいものを愛することを愛する人を愛し、

美しいものを愛しているから愛している!!」

チュウカンシヨク 「私たちビュテホーカンパニーは!!」

『ソトヅラ』「眉目!!」

『ウチガワ』「秀丽!!」

『ソトヅラ』「牛鬼!!」

『ウチガワ』「蛇神!!」

『ソトヅラ』「才色!!」

『ウチガワ』「兼備!!」

『ソトヅラ』「ダボハゼ!!」

『ウチガワ』「劣悪!!」

『ソトヅラ』「絢爛!!」

『ウチガワ』「豪華!!」

『ソトヅラ』「汚物!!」

『ウチガワ』『まみれ!』

一同 「う~~~~~」

一同、何やらぐうっと力を籠める。

一同 「(一斉に) ビュテホーカンパニー!!!!!! いえ~~~~い!!!!!!」

フーとか、ワ〜とか、ひとしきり騒ぐ。

チュウカンシヨク、笛を吹く。

すると一同、元の横一列に戻り静かになる。

新入社員、おっかなびっくり、一同の様子を見ている。

チュウカンシヨク、新入社員に向けて、

チュウカン「あ、驚いちゃったよね?」

新入社員 「(何とって言いかわからず) あ、いや、あの、その」

チュウカン「(妙に明るく) いきなりこんなの見せられて、ブラック企業みたいだなあって
思った?」

新入社員 「あ、いや、そんなことは・・・」

チュウカン「(妙な圧がある) いいの、いいの、私たちも思ってるから、昭和みたいだなあ
って。あ、でもこんなこと言ったらダメか、世代コンプラみたいなやつに引
かかるのかなあ? ね、今どきの子って、こういうのって敏感なんだよね?
難しいよねえ、昨今のそういうの、お姉さん、ついていけないなあ。あ、昭和
と唱和って音一緒だね、面白いね、ね?」

新入社員 「・・・は、はい」

チュウカン「(圧が強い) じゃあ、笑お!」

新入社員 「・・・は・・・はい」

新入社員、チュウカンシヨクの圧に押されて、ぎこちない笑顔をする。

チュウカン「ああああ!! かわいっ! かわいいね、君! かわいって言われるでし
よ!? 絶対、絶対言われたことあるよ! いやあ、かわいい! あ、でも君
がかわいいんじゃないかって、こう、新入社員のな生き物はみんなかわいく見えち
やうのかなあ、私ダメなんだよねえ、こう、びくびくおどおどした生き物、大
好きなんだよ! そう、だから、あの、ウサギ、ウサギちゃんとか大好きなの!
ねえ、ウサギちゃんって呼んでいい?」

新入社員 「いえ、あの、その・・・」

チュウカン「つかああああ、ダメかあ。

（突然切り替わって冷静に）しょうがない。あきらめよ。（やや早口に）あ、私はチュウカンシヨクと申します。中間管理職じゃなくて、中間職ね。チュウカンが名字で、シヨクが名前、職種は中間職。わかった？」

新入社員「ん？ え？ 中間さん？」

チュウカン「あ、そのアクセントじゃなくて、宇宙空間、の、」

新入社員「チュウカンさん」

チュウカン「あ、正解。じゃあ、よろしく」

新入社員「あの、私は――」

チュウカン「ああ、いいよいいよ、自己紹介しなくて」

新入社員「え、でも」

チュウカン「シンニウちゃんって呼ぶから。大体この研修に参加する新入社員の子って、辞めちゃうんだよねえ。さっきの社訓のところでもう帰っちゃう子もいるくらいだから、君は結構レアケース。あ、それとも帰るタイミング逃しちゃっただけ？ だったら、ご愁傷様」

新入社員「え、じゃあ、今帰ってもいいんですか？」

チュウカン「いいじゃん、いなよ。いるだけでもお給料出るし。この会社そういうところはちゃんとしてんだから。なんか質問あれば何でも聞いてね」

新入社員「はあ、」

チュウカン「あとは――」

ハリコ「チュウカンさん」

チュウカン「はいはい？」

ハリコ「（張り付いたような笑顔で）そろそろ」

チュウカン「ああ、そうね」

チュウカン、一つ咳ばらいをして。

チュウカン「え、それではこれより、第54987回ビュテホーカンパニー企画会議を行います」

新入社員「五万・・・？」

チュウカン「なお、季節的なものもあり、今回は新入社員の新人研修も行いますのであしからず。

それでは、新入社員の方もいらっしやいますので、本企画会議の趣旨を――」

ドロクサ「（不満げに）え、なんで？」

ヨゴレ「（ぼそぼそと）今更そんなことする必要ないです」

ニゴリ「（めんどくさそうに）大体、そっちの人たちと同じ空気吸うのも嫌なんですけ

ど」

ハリコ 「張り付いたような笑顔で」 あら、随分な言いようね」

ミテクレ 「(同じく張り付いた笑顔で) せっかくの新人さんがいらっしやるのに」

イデタチ 「(同じく) 先輩として失礼じゃないの?」

ドロクサ 「あのさ、その顔止めてくんない? 腹立ってくる」

ハリコ 「悔しかったら愛想の一つでも覚えたら?」

ヨゴレ 「(ぼそぼそ) そういうのはあなたたちの――」

ミテクレ 「(わざとらしく大声で) 何ですかあ? 聞こえないですう?」

ニゴリ 「うるさい! 大声出すなよ!」

イデタチ 「そちらこそ、大きな声は止めてください! お口が臭いのよ!」

ニゴリ 「はあ???!」

ニゴリ、イデタチに詰め寄る。

イデタチ、迎え撃とうとする。

が、チュウカン、笛を吹く。

ニゴリとイデタチ、静止して元の位置に戻る。

新入社員、驚きの表情。

新入社員 「あのー、私、帰っても・・・」

チュウカン 「ああ、大丈夫大丈夫、いつものことなので。はい、では、気を取り直して、今

回の企画会議の趣旨をご説明しますね。

こほん。

我々、ビュテホーカンパニーはこの世界中のありとあらゆる「美しいもの」を生み出すことを使命とした企業であります。建造物、宝飾品、衣服、アート作品、風光明媚な風景、人の心まで、あらゆる「美しいもの」をこの世に生み出すのが、私たちの――」

新入社員 「(手を挙げて) あのー」

チュウカン 「はい、シンニウちゃん!! あ、シンニウって、スパイをする侵入と音が一緒だね、もしかして、新入社員を装った企業スパイだったりするのかな?」

新入社員 「え? いや、違います。あの、社訓の時になんか変な言葉混ざってた気がするんですけど」

ドロクサ含め、「ウチガワ」の一同、鼻で笑う。

ドロクサ 「笑えるっしょ?」

ヨゴレ 「牛鬼蛇神なんて、クトゥルフかよ」

ニゴリ 「ダボハゼ！ 劣悪！」
ドロクサ 「ああ、でも、あちらのお姉さま方が汚物！ って叫んでんのは笑える」
ヨゴレ~~と~~ニゴリ 「確かに〜」

「ウチガワ」一同、わいわい。

チュウカン 「やっぱり気になるかな？」

新入社員 「あの、なんて言うか、美しい美しい、って言ってるのに、なんで汚い言葉が混ざってるのかなっていう素朴な疑問です」

ハリコ 「会長のお言葉なのよ」

新入社員 「お言葉？」

ミテクレ 「(会長の物まねっぽく) 美しいものはただ美しいものではないけない」

イデタチ 「(同じく) 外見(そとみ)、外観が美しいのなら、その中には絶対に不純物がある」

一同、なんとなく決めポーズをとりつつ。

ソトヅラ一同 「きれいなものと汚いものは表裏一体」

ウチガワ一同 「ソトヅラとウチガワが揃っていないければ」

一同 「真の美しさは宿らない！！」

新入社員 「(手を挙げながら) ああ、」

チュウカン 「はい、シンニユウちゃん」

新入社員 「この人たち、仲良いんですか？」

チュウカン 「いいえ、社員教育の賜物です」

新入社員 「それは洗脳なのでは？」

チュウカン 「はいでは、ビュテホーカンパニーの使命を理解していただけたかしら？

私たちビュテホーカンパニーの生み出すものはただ美しいだけではないの。完璧な美しいものを生み出すために、我が社では、「ソトヅラ」つまりは、外見の美しさを追求する部門と、「ウチガワ」つまりは内面の汚らしさを追求する部門を分け、二つの部門に切磋琢磨し時に協力し合い、美しいものの開発に勤しんでいるのです！」

新入社員 「これまで生み出した美しいものって？」

ハリコ 「雨って知ってるかしら？」

新入社員 「雨って、雨ですか？ 天気のこと？」

ミテクレ 「あれを生み出したの、私たちなの」

新入社員 「は？ なんの冗談ですか？」

イデタチ 「天空から降りくる美しき雨粒」

ハリコ 「時に激しく、時にさめざめと」

ミテクレ 「涙のように降り、」

イデタチ 「作物には恵みを与え、」

ハリコ 「夕立は夏の暑さを忘れさせ、」

ミテクレ 「千変万化するその姿はまるで、人のよう」

ソトヅラ一同 「ああ、素晴らしき姿の、その名は、雨！」

ドロクサ 「けど、中身は雑菌だらけ！」

ハリコ 「ちよっと！」

ヨゴレ 「一粒の雨もたくさん降れば山をも崩す」

ニゴリ 「一粒も降らなけりや作物が枯れ果てる」

ドロクサ 「人様皆様はこういうだろうよ」

ウチガワ一同 「ああ、憎たらしい雨よ！」

ソトヅラ、ウチガワ、陰悪な雰囲気。

チュウカン 「まあ、こんな感じです」

新入社員 「雨を作った？」

チュウカン 「うちの会社も長いから」

新入社員 「はあ・・・他には？」

ドロクサ 「似たような奴だと、」

ヨゴレ 「雪かな？」

ニゴリ 「あれ、雨と一緒にですげえ汚いし、めっちゃ降ったらそれはそれで困るのに、やたら人気あるよな？」

ドロクサ 「(馬鹿にしたように) 見た目がきれいなものは大体人気だから」

ヨゴレ 「(ソトヅラに向かって) どっかの誰かさんたちみたい」

ハリコ 「いいじゃない雪。汚いものなんて包み隠してくれる」

ミテクレ 「昨日までの灰色の街並みが白一色になる」

イデタチ 「新雪に足を踏み込む嬉しさはみんな一緒のはずでしょう？」

ニゴリ 「(嫌味っぽく) 溶けた雪だるまは化粧が溶けてるみたい」

ドロクサ 「(ハリコに向かって) ああ、今のあなたの顔みたいだ」

ハリコ 「(余裕をもって) ふふふ、じゃあ、今度雪合戦でもしましょうか？」

ドロクサ 「石入りデスマッチ？」

ハリコ 「綺麗なものには棘があるのよ」

ドロクサ 「自分で自分のこと綺麗とか言うの恥ずかしくない？」

ハリコ 「だって、事実だもの」

ドロクサ 「あんたがしてるお綺麗な化粧だって、私たちの製品だってわかって言うてる？」

ハリコ 「美しいでしょう？ 見せたくない内側がきれいに隠されてお化粧も本懐でしょうよ」

ドロクサ 「(煽る) 懐かしまないと思ひ出せないぐらいお化粧厚いんですかぁ??」

ハリコ、ドロクサ、にらみ合う。

チュウカン「とまあ、大体いつもこんな感じで会議が進まなくて、開催数は多いんですけど、実際に形になっているものは存外少ないの」

新入社員 「参考までに、これまで生み出した美しいものって・・・」

イデタチ 「おにぎり」

ミテクレ 「外見はきれいでおいしそうだけど」

ヨゴレ 「素手で作るのはちょっとね・・・」

ニゴリ 「泥だんご」

イデタチ 「ピッカピカになっているのはきれいだけれど、」

ヨゴレ 「結局、泥だからね」

ミテクレ 「掃除」

ニゴリ 「汚い綺麗の表裏一体」

イデタチ 「綺麗になった分、ゴミが出る」

新入社員 「ああ、そういう感じなんですネ」

ドロクサ 「いや私たちの開発した美しいものはこんなもんじゃあない」

ハリコ 「この世でもっとも、ソトヅラとウチガワを持ち合わせているもの、それは」

一同 「人間！」

ドロクサ 「人間には表と裏がある」

ハリコ 「本音と建て前」

ヨゴレ 「嘘とホント」

ミテクレ 「あっちの顔とこっちの顔」

ニゴリ 「美辞麗句を並べ立て」

イデタチ 「腹の底では何を思っているのやら」

一同 「汚いものと綺麗なものの表裏一体の美しいもの、それが人間！」

決めポーズ。

新入社員 「やつぱり仲いいんじゃないんですか？ っていうか、人間ってここで作られたんですか!？」

チュウカン「そうよ。知らなかった？ ガイダンス受けたでしょ？」

新入社員「何かの比喩か何かかと」

チュウカン「いやだ、最近の若い子、知らないことあると事実を事実として受け止められないのねえ」

新入社員「その言い方、やめてください」

チュウカン「さて、シンニウちゃん、ここまでお話聞いて、何か思いついたりした？」

新入社員「え？ 急に何ですか？」

ドロクサ「まあ、何と言うか、私たちも煮詰まってるのよ」

ハリコ「何十年、何千年もやってるとさすがに一通りのものが出尽くしちゃって」

新入社員「え？ 千・・・？ 何年のあと、何千年って言いました？」

チュウカン「というわけで、我が社も新しい風を取り入れていこうというそういう心構えなのです！ なので、何か思いつくことがあれば、どうぞ」

一同、新入社員に向けて期待のまなざしを向ける

新入社員「ええ……。マジか……。えつと……。」

新入社員、何かを考えながら、歩き回る。

新入社員「あ」

チュウカン「何か思いついた？」

新入社員「(割と役者自身の実体験を素で語ってるような感じで) この間、大学の同期と飲みに行ったんですよ。で、ちょっと久しぶりに会ったんで、結構盛り上がっちゃって、一軒目は鍋食べて、アニコウ鍋。二軒目に居酒屋で焼き鳥食べて、三軒目にカラオケ行ったんですね。で、四軒目になんかな、ちょっといい感じのバーに行つて、で、朝までいて、で、さすがに気持ち悪くて、結構飲んだんですよ、私、そんなにお酒強い方じゃないんですけど、なんかたまにやたら飲めるときあるじゃないですか。で、「あ、今日なんか飲める日だなあ」って思ってたんですが気持ち悪くなっちゃって、お店出て、朝の空って綺麗だなあって思つて。空気もなんか澄んでる感じがするなあって、土曜日の8時って、町はまだ静かだなあと思って、で、吐いたんです。電信柱のところで。ランニングしてるおじさんが、うわってなっていました。それで、綺麗だなんて」

チュウカン「・・・何が？」

新入社員「いや、(手で吐いたというジェスチャーをしながら) ほら、ね。で、こう、びちゃびちゃってなってるんですよ。結構出たんで、その中に鍋食べた時のシメジがすごい綺麗に――」

ハリコ 「やめて！」

ドロクサ 「何こいつ！」

新入社員 「え、でもすぐくないですか？ 結構間挟んでたのに、ほぼ完。べきな状態のシメジ出てきたんですよ？ キノコすげえて、なりました。（客ふり）なりません？」

チュウカン、笛を吹く。

新入社員 「ええ、ダメですか？ 綺麗と汚いの両立」

チュウカン 「うん。ごめん。聞いた私が悪かった」

微妙な空気感。

ハリコ 「どうするんですか、チュウカンさん」

ドロクサ 「今期のアイデア、まともなやつないんですよ」

ミテクレ 「研修にかこつけてアイデア引っ張り出すっていう話だったじゃないですか」

ヨゴレ 「なのになさかの嘔吐物」

イデタチ 「さすがにねえ」

ニゴリ 「お嬢ちゃん、美的感覚って言葉知ってる？」

新入社員 「やませたのあなたたちでしょ！？」

チュウカン 「まあまあ、まあまあ、」

ドロクサ 「そろそろアイデア出さないと会長含め役員連中がうるさいですよ」

ハリコ 「癪癪起こして天地創造からやり直されても困るしねえ」

ドロクサ 「あの爺さんたちならやりかねない」

ハリコ 「さて、」

ヨゴレ 「（チュウカンに）どうするんですか？」

チュウカン 「じゃあ、こうしましょう」

チュウカン、手を叩く。

チュウカン 「すいませーん、お願いします！」

★★★ 観客企画 ★★★

進行役、登場。

※進行として何をするのか伝われば構わない。

進行役

「えー、お話の最中ですが、事前に皆様に記入いただいた、アンケートをですねここで発表をさせていただきたいと思います。もちろん、匿名ですので安心してくださいね。皆さんにお答えいただいたアンケートを、このビュテホーカンパニーの企画会議で選別させていただきたいと思います！では、いきますよ！」

進行役、あらかじめ選別したアンケートを読み上げていき、出演者に「美しいもの」としての資格があるかどうかを判断してもらう。

以後、適当な頃合いで切り上げる。

進行役

「では皆さん、ご協力、ありがとうございました！！！」

★★★ 話に戻る ★★★

一同、頭をひねっている。

チュウカン「やっぱりなかなか決まらない」

ハリコ「また時間を無駄にしたわ」

ドロクサ「美しいものを作るのも大変だ・・・」

新入社員「あ！」

イデタチ「なんですか？」

ヨゴレ「またゲロの話ですか？」

ミテクレ「やめてくださいよ」

ニゴリ「人の嘔吐の話なんか何度も聞きたくありません！」

新入社員「違いますよ！ ひらめきました！ 種です！」

ドロクサ「種？」

ハリコ「植物の？」

新入社員「そうです、種です！」

チュウカン「そんなの綺麗でも汚くもないでしょう、どう美しくなるんです？」

新入社員「見てくれは不細工な種の中身はとっても綺麗な花が入っています！ これは綺麗で汚いものなんじゃないですか？ 種は土に埋めないと育ちません。手が汚れます。水も与えなきゃいけない、育てるのに汗水たらさないといけないかもしれない。でも、ちゃんと育てれば、元気な芽が出て大きく育ち、花が咲いたり、おっきな樹になったりします！ どうですか？」

チュウカン「なるほどそれは、」

一同 「美しい！」

チュウカン「では、さっそく会長に報告しましょう。それでは、第54987回ビュテホーカ

ンパニー企画会議を終了いたします！ お疲れさまでした！」

新入社員含めた一同「お疲れさまでした！」

チュウカン「(客席に)皆様も、ご協力ありがとうございました！」

終